

令和元年度小樽市地域公共交通活性化協議会事業報告書

●協議会、分科会の開催状況について

令和元年度は、協議会を4回、分科会を3回開催した。

協議会では、小樽市地域公共交通網形成計画（案）や市内路線バス均一運賃の改定（協議運賃）について協議した。また、生活交通確保維持改善計画分科会では、平成30年度に導入したノンステップバスの事業評価と、令和2年度の鉄道駅バリアフリー化事業として、南小樽駅のエレベーター設置と、小樽築港駅への内方線ブロック（ホーム転落防止用ブロック）設置事業の計画について協議した。なお、南小樽駅のバリアフリー化事業については、令和2年度の完了予定から令和4年度の完了予定へと工期が延長された。

○令和元年5月22日：令和元年度第1回小樽市地域公共交通活性化協議会

報告事項
人事異動に伴う委員の変更について
協議事項
パブリックコメントの結果について 小樽市地域公共交通網形成計画(案)について

○令和元年8月2日：令和元年度第2回小樽市地域公共交通活性化協議会

報告事項
小樽市地域公共交通活性化協議会の組織体制について
協議事項
令和元年度小樽市地域公共交通網形成計画に係る事業計画(案)について

○令和元年11月8日：令和元年度第1回地域公共交通分科会

協議事項
市内路線バス均一運賃の改定について(案)

○令和元年11月21日：令和元年度第3回小樽市地域公共交通活性化協議会

報告事項
利用促進事業の進捗状況について
協議事項
小樽市内路線バス均一運賃改定(協議運賃)について

○令和2年1月22日：令和元年度第1回生活交通確保維持改善計画分科会（書面会議）

協議事項
地域公共交通確保維持改善事業（ノンステップバス導入事業）・事業評価（案）について

○令和2年3月12日：令和元年度第2回生活交通確保維持改善計画分科会

報告事項
南小樽駅バリアフリー化事業の変更について
協議事項
JR 函館線南小樽駅（北海道小樽市）生活交通確保維持改善計画（案）について
JR 函館本線小樽築港駅（北海道小樽市）生活交通確保維持改善計画（案）について

○令和2年3月16日：令和元年度第4回小樽市地域公共交通活性化協議会（書面会議）

協議事項
令和2年度小樽市地域公共交通網形成計画に係る事業計画（案）について
小樽市地域公共交通活性化協議会財務規程（案）について
令和2年度小樽市地域公共交通活性化協議会予算（案）について

●令和元年度の計画の実施（達成）状況について

（施策1）地域公共交通網における利便性の強化

○小樽築港駅前バス停の移設要望について

移設予定地選定のため、地先店舗への聞き取り調査、関係機関との個別協議を実施した。

○南小樽駅バリアフリー化事業の実施

工期延長、一部工事の繰越しなどがあったが、バリアフリー化に向けて事業を推進。

（施策2）持続可能な交通体系の構築

○料金改定（協議運賃）の協議・実施

分科会、協議会を経て、220円から240円への運賃改定で合意を得た。令和2年4月1日より、市内均一運賃を改定。

○国庫補助（フィーダー系統補助）活用の協議、市補助要綱の協議

協議した結果、予定通り実施予定。

(施策3) 市民・交通事業者・行政が連携・協働した公共交通利用に向けた仕組みづくり

○冬期間マイカー自粛キャンペーンの実施

予定通り実施。(詳細別紙参照)

○広報おたる特集記事掲載、FMおたるの番組による啓発の実施

広報おたる8月号で見開き2ページの特集記事を掲載。FMおたるは未実施。

(施策4) 地域公共交通の利用促進策の展開

○バスロケーションシステムの協議

事業費等について協議。継続協議する。

○インバウンド向け公共交通マップの作成、配布

予定通り実施。(詳細別紙参照)

インバウンド向け公共交通マップについて

1 マップの概要

- ・公共交通マップと主な市内観光地
- ・バス、鉄道、タクシースターの利用方法
- ・小樽駅周辺図
- ・近郊都市への移動方法 など

2 作成スケジュール

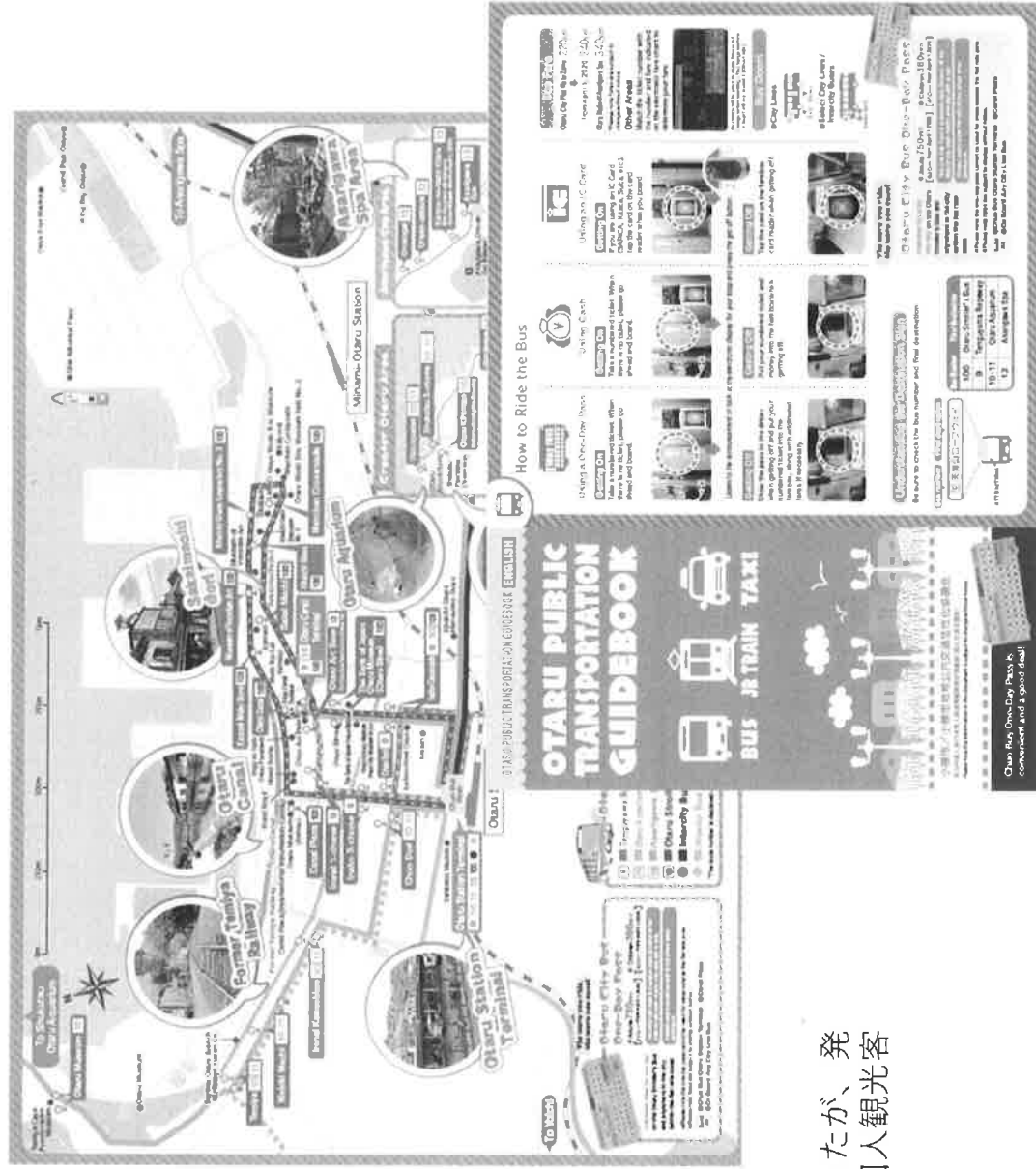
- ・R1.10.11 国庫補助交付決定
- ・R1.11.5 入札、委託業者決定
- ・R1. 2.21 発行

3 印刷枚数と配布先

- ・印刷枚数：英語30,000部、中国語30,000部
- ・配布先：市内宿泊施設63か所

4 事業実施効果について

当初は一日乗車券の販売枚数で効果を検証予定であったが、発行直後に新型コロナウイルス感染拡大により市内の外国人観光客は大幅に減少。現状では検証不可能。



冬期間マイカー通勤自粛キャンペーン

1 実施概要

- ・実施期間：令和2年1月1日（水）～31日（金）
- ・参加人数（延べ）：230人
- ・参加事業所：14事業所＋小樽市役所

小樽商工会議所、株式会社クマシロシステム設計小樽営業所、合同会社小樽カナナルポート、近藤工業株式会社、中央バス観光開発株式会社、中央バスビジネスサービス株式会社、中央ビルメンテナンス株式会社小樽支店、北海道後志総合振興局小樽建設管理部、北海道後志総合振興局小樽同税事務所、長崎屋小樽店、ほか4事業所

2 実施結果

- ・参加人数：230人（延べ人数）
- ・CO2削減量：約1.32トン

1人当たり排出量 = CO2排出原単位 (2.3kg/ℓ) × 通勤距離 (11.7km) ÷ 燃料(9.7km/ℓ) × 通勤日数

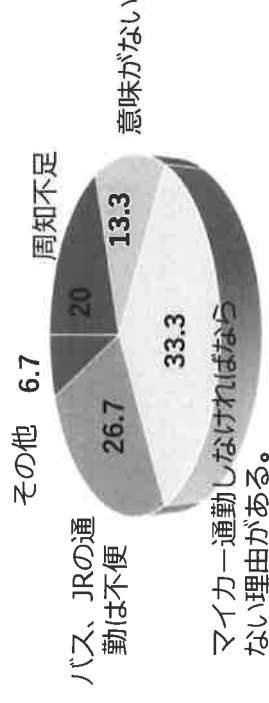
3 アンケート結果について

右のとおり回答を得た。今回、7割以上の事業所が「次回も参加したい」と回答している一方、参加が少なかった理由として「周知不足」「意味がない」といった理由が3割以上あった。このため、次回実施に当たっては、周知時期や範囲、参加趣旨の説明など、周知方法を改める必要があると考えられる。

問1) キャンペーン参加者について



問2) 参加が少なかった理由は？



問3) 次回も参加したいか？

